

2007年2月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

2007年から10年にかけて、約15年周期に再確認される予防医療と発達医療の見直し年に入った。

さっそく予防医療の検査器具やセルフメディケーショングッズ展が開催された。高度医療品や高価な物が多く、「衛生」を担当する行政が使用する器具となるかどうかは疑わしい。

一方「予防」に関しては、各自で行えるような検査法と指導法及び実施とホームケアについての強いメッセージを感じた。

（株）ビーブランド・メディコ・デンタル社長と新年対談をした。

先づ各医院の診療内容の表示と各員の職務表示が義務づけられていること、劇薬や毒薬の鍵付き管理義務の再確認通告があったことが報告された。

診療所と自宅が離れている場合には特に厳しく管理を求められているということだろう。

あたり前のことが慣れや習慣でおろそかになりつつあるのは、予防医療や発達医療にかかわらず、たえず確認しあうという態度は必要なことである。

サホライドの管理はより厳しくなるだろうが、使用頻度の高い小児歯科医は鍵よりもエプロンやキャビネットテーブルが黒く汚れていることの方が頭痛の種になっているのが現実である。

T.V 捏造の「納豆ダイエット」やずさんな品質管理の「不二家」そして鳥インフルエンザから女性は産む機械と発言する「厚生省」まで、三平師匠の顔負けの「どうもすみません」作戦があたり前の時代になると、管理、管理というけれどどこまで本気か疑わしいところもある。いずれにしても、予防医療のスタートラインである歯ブラシは、患者さんに1ヶ月毎に交換できるシステム管理法を充実する必要がある。歯科医院では、PMTCを含む最適の歯ブラシ選択と実地は当然のことながら、患者への予防処置と指導内容が家庭で1ヶ月維持できるかどうかポイントとなる。

予防医療では、「平穴植毛歯ブラシ「Dr. Angel シリーズ」」は「Cupid」から加齢とともに成長に合わせて「Jupiter」から「Fairy」へと進歩する。そのステップアップを使用者が健康と成長を実感できるように指導すべきであるし、むし歯や歯周病の発生部位や進行程度に合わせて毛先の 2mm 二段植毛の利点を生かして説明指導できるようになれば、予防は完全であるといえよう。

歯周病の初期の段階や、安定してメンテナンスの段階に入れば、歯科医院では進行期と同様に二段植毛の「Clear 20MS」を歯科衛生士が月に 1 回 100% 歯垢除去に用いるが、家庭では保健衛生を維持するために「Dr. Angel シリーズ」を使うという方法が基本的なマニュアルとなる。この方法は術者・患者共に熟練度を体感しやすい。

フッ素はすでに医院ではジェルタイプを、家庭ではキャナリーナ(#100・900)を使い分けている。ミラノール洗口は衛生統計上ではっきりしたデータが得られるということで、むしろ集団指導(予防活動)用というイメージが強い。

発達医療においては、原点は食生活であるといえる。歯科では咬合・咀嚼に対して、授乳期から離乳そして普通食に至るまでの具体的な指導がなされる。むし歯、歯周病、全身症など病を診るのではなく、咬合・咀嚼に絞って発達検査にのっとなって指導する。噛むことをマスターするまでは月に一度は健診し、発達に遅れや異常を認めたらセラピスト(咬合指導者)によるセラピーを受ける。というシステムを作るのが望ましい。

現在は歯科医師が健診し、歯科衛生士が咬合指導をするのが一般的である。

食事指導や発音指導だけでなく、補助具を用いた方が良いと判断された時には、「チューイングマスター CAM CAM」でトレーニングするのが理解(1.マスターできたら破れる。2.オクルージョンに問題がある部分から破れる。というのがチェッカーの役目を果たしていると考え、どの部位で咬合指導するか、調整するかを考える目安となる)を得やすい。

乳歯列、そして混合歯列、永久歯列期などそれぞれに理想的な形にできているが、最後臼歯部分を大き目の爪切りでカットして効果的な個人形態に修正できるのも高品質シリコーンの利点である。

舌癖や口呼吸癖者に舌の位置を指導できる設計であるのも嬉しい。

オーストラリアの Dr. Kevin Bourke が絶賛したのもこのあたりを先読みしていたのかもしれない。

先生方からのご意見をお待ちしております。